令和２年３月 13 日
新潟県病害虫防除所

令和元年度
新潟県病害虫発生予察速報第１３号

（クロチアニジン剤抵抗性アカヒゲホソミドリカスミカメの発生）

県内の２地区において、クロチアニジン剤に抵抗性を示すアカヒゲホソミドリカスミカメが確認されました。当該地区におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの防除には、他の系統の薬剤を使用するようにしましょう。

１　クロチアニジン剤抵抗性アカヒゲホソミドリカスミカメの発生状況

（１）令和元年、新潟市西蒲区および南区の各１地区でアカヒゲホソミドリカスミカメのクロチアニジン剤抵抗性個体群が確認されました。

（２）抵抗性個体群は農薬使用基準に相当する成分濃度で死亡率が低下しており、実際の農薬使用時にも防除効果が不十分になると考えられます（図）。

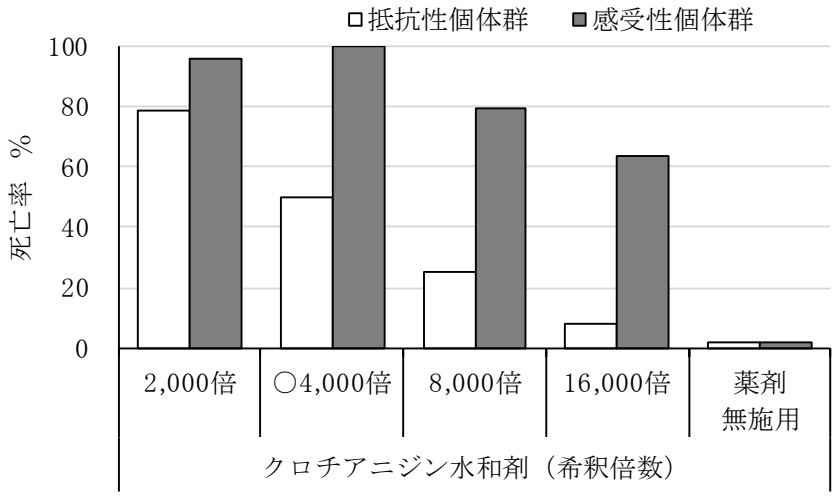

図　葉浸漬法によるアカヒゲホソミドリカスミカメ雌成虫の死亡率
（○は農薬使用基準の希釈倍数）

注）・葉浸漬法：植物の茎葉を所定濃度に希釈した薬剤に浸漬し、ここに供試虫を放して殺虫力を評価する方法．圃場での防除効果を推定するための手法．
・図の希釈倍数は薬剤に対する感受性を検定するために設定されたものであり、実際の使用に当たっては農薬使用基準を厳守すること．

（３）クロチアニジン剤感受性低下の要因

抵抗性個体群が確認された２地区のうち、西蒲区ではクロチアニジン剤が長年にわたり連用されており、このことが抵抗性発生の主因と考えられます。

（4）クロチアニジン剤について

ネオニコチノイド系（IRAC コード：4A）に属する殺虫剤で、斑点米カメムシ類、イネドロオイムシ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイの防除薬剤として以下の薬剤が平成 31 年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針に掲載されています。

本田施用剤：ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤 DL、ダントツ H 粉剤 DL、ダントツ粒剤

2　今後の対応

（1）抵抗性個体が確認された地区での対応

新潟市西蒲区及び南区では、アカヒゲホソミドリカスミカメが主要加害種となる極早生・早生品種に対してクロチアニジン剤では十分な防除効果が期待できないため、他系統の殺虫剤に変更しましょう。

（2）クロチアニジン剤を連用する他の地域での対応

共同防除でクロチアニジン剤を長年連用している地域では感受性が低下している可能性があることから、他系統の殺虫剤への変更を検討しましょう。

（3）代替剤の選定について

クロチアニジン剤の代替剤は、病害虫防除指針を参照し、地域の品種構成や防除実態を考慮した上で、関係指導機関で十分に協議し選定しましょう。

（4）アカスジカスミカメへの対策

アカスジカスミカメでは、これまでに薬剤抵抗性の発達は確認されていません。アカスジカスミカメが主要加害種である中生及び晩生品種の防除については、従来どおりクロチアニジン剤が使用できます。